

令和 5 年度（2023年度） 点検・評価報告書（たたき台）

第 2 章 施策の推進状況

ポイント

本章では、北海道教育推進計画（令和 5 年度（2023年度）～令和 9 年度（2027年度））で設定した 22 の施策項目ごとに、指標の状況や施策の推進状況を分析し、「順調」、「概ね順調」、「やや遅れている」、「遅れている」の 4 つの区分により評価するとともに、施策を推進する上での課題や今後の対応方向を示します。

[評価の概要]

(1) 対象年度

令和 5 年度（2023年度）（北海道教育推進計画の各施策項目に関する点検・評価）

(2) 評価内容

ア 指標の状況

各施策項目において設定した目標指標ごとの進捗状況により評価

イ 施策の推進状況

各施策項目の取組の柱ごとに整理した P D C A サイクルの内容に基づき評価

Plan	Do	Check	Action
主な取組	取組の実績	取組の成果 ・課題	今後の方向

評価の方法

定量評価

①各推進指標の進捗率により4段階で評価

進捗率	100%以上	90~100%	80~90%	80%未満
点数	4	3	2	1

②各指標の平均点により判定

定量評価	1~4点
------	------

定性評価

③各取組を次の観点により2段階で評価

点検・評価の結果を踏まえた取組を進め、施策の方向性に進展が見られるか

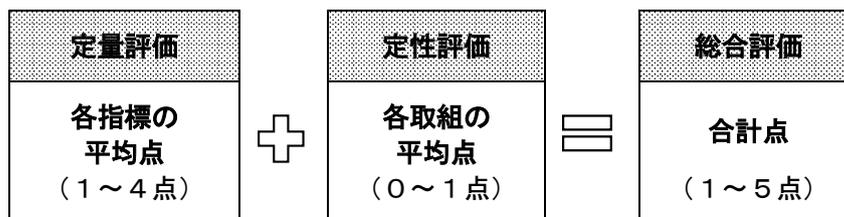
	満たしている	満たしていない
点数	1	0

④各取組の平均点により判定

定性評価	0~1点
------	------

総合評価

⑤定量評価と定性評価の合計点により判定



判定の基準

合計点	総合評価
4.6以上	順調
3.6以上4.6未満	概ね順調
2.1以上3.6未満	やや遅れている
2.1未満	遅れている
(定量評価できない場合)	判定不可

北海道教育推進計画（2023年度～2027年度）の体系図

基本理念

- 【自立】：自然豊かな北の大地で、世界を見つめ、自立の精神にあふれ、自らの夢に挑戦し、実現していく人を育む
- 【共生】：ふるさとへの誇りと愛着を持ち、これからの社会に貢献し、共に支え合う人を育む

3つの施策の柱

22の施策項目

施策の柱1

子どもたち一人一人の可能性を引き出す教育の推進

- 1 SDGs・ESDの推進
- 2 幼児教育の充実
- 3 新しい時代に必要となる資質・能力の育成（小・中学校）
- 4 新しい時代に必要となる資質・能力の育成（高校）
- 5 特別支援教育の推進
- 6 STEAM教育の推進
- 7 キャリア教育の充実
- 8 体力・運動能力の向上
- 9 健康教育・食育の充実
- 10 道徳教育の充実
- 11 ふるさと教育の充実
- 12 グローバル人材の育成

施策の柱2

学びの機会を保障し質を高める環境の確立

- 13 ICTの活用推進
- 14 いじめ防止の取組の充実
- 15 不登校児童生徒への支援の充実
- 16 教員の養成・採用・研修の一体的な改革の推進
- 17 働き方改革の推進
- 18 学びのセーフティネットの構築

施策の柱3

地域と歩む持続可能な教育の実現

- 19 地域と学校の連携・協働の推進
- 20 生涯学習・社会教育の振興
- 21 安全・安心な教育環境の構築
- 22 芸術文化活動の推進

施策評価調書

1 施策の状況

施策名	施策項目3 新しい時代に必要となる資質・能力の育成（小・中学校）	所管課	学力向上推進課（社会教育課、高校教育課、義務教育課）
施策の方向性（要約）	<p>計画4章「施策の方向性」を記載。計画期間中は記載を修正しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力・学習状況調査の結果を系統的に分析し、学力向上に向けた教育活動の検証と改善に全ての教職員が一体となって組織的に取り組む。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進め、新しい時代に必要となる資質・能力を育成する。 ○ ICT等を活用し、発達段階に応じて、全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。 ○ 規則正しい生活を送ることにより学習意欲の向上を図るため、子どもの望ましい生活習慣や学習習慣の定着に向けて、家庭・地域と連携した取組を促進する。 		
前年度の状況	総合評価	評価年度（令和5年度）の取組【P】	
	順調	R6年度調書から記載 ※前年度(R5)の調書の「5 総合評価を踏まえた次年度の取組【A】」をコピー	

2 定量評価

全ての指標を評価

進捗率に応じて1～4点

指標	基準値 (R4)	目標値(上段)					進捗率	点数	出典 (調査機関) 調査期日	分析(令和5年度の主な取組と成果)【D・C】
		実績値(下段)								
		R5	R6	R7	R8	R9				
どの程度、PDCAサイクルを確立しているかとの質問に対し、「よくしている」と回答した学校の割合(%) (小、中)	小46.2 中49.0					94.0	-	点	全国学力・学習状況調査 (文科省)	<ul style="list-style-type: none"> ・新設。道の基本評価調書と同様 ・指標の【A】に当たる部分は、「5 総合評価を踏まえた次年度の取組【A】」で整理
								R5.4		
話し合う活動を通じ、自分の考えを深めることなどができていると回答した小学6年生、中学3年生の割合(%)	小80.3 中78.0					100.0	-	点	全国学力・学習状況調査 (文科省)	
									R5.4	
小・中学校の国語、算数・数学の平均正答率が全国以上の教科数	1					4	-	点	全国学力・学習状況調査 (文科省)	③
									R5.4	
授業以外に、1日当たり1時間以上勉強すると回答した小学6年生、中学3年生の割合(%)	小56.6 中63.6					74.0	-	点	全国学力・学習状況調査 (文科省)	④
									R5.4	
家や図書館で、普段、1日10分以上読書をする回答した小学6年生、中学3年生の割合(%)	小57.1 中48.4					73.0	-	点	全国学力・学習状況調査 (文科省)	⑤
									R5.4	

指標	基準値 (R4)	目標値(上段)					達成率	点数	出典 (調査機関) 調査期日	分析(令和5年度の主な 取組と成果)【D・C】
		実績値(下段)								
		R5	R6	R7	R8	R9				
学校図書館図書標準を達成している学校の割合(%) (小、中)	小42.5 中40.6 (R3)					小70.0 中60.0	-	点	学校図書館の現状に関する調査(道教委) R6.2予定	⑥
近隣の小(中)学校と教育課程に関する共通の取組をよく行ったと回答した学校の割合(%) (小、中)	小21.7 中30.2					61.0	-	点	全国学力・学習状況調査(文科省) R5.4	⑦
中学校と高校との円滑な接続の観点を踏まえた教育課程を編成している高校の割合(%)	37.8					70.0	-	点	管内高等学校等の状況調査(道教委) R5.8	⑧

進展見られる：1点
進展見られない：0点

3 定性評価

取組の柱	(1) 教育課程の実施状況を評価してその改善を図る検証改善(PDCA)サイクルの充実			点数	点
令和5年度の主な取組【P】	取組の実績【D】	取組の成果と課題【C】	進捗状況		
①各学校段階において育成を目指す資質・能力を明確にし、学校段階間において共有するなど、小学校から高校までの12年間を見通した検証改善サイクルの確立	①EBE (Evidence Based Education) 協議会を開催し、小・中・高の管理職等で組織的な授業改善等に向けた協議を実施(全管内で3回開催予定)		<div style="border: 1px solid blue; padding: 10px; display: inline-block;"> 小柱ごとに進捗状況がわかるように記載 (点数付けの理由がわかるように記載) </div>		

取組の柱	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善			点数	点
令和5年度の主な取組【P】	取組の実績【D】	取組の成果と課題【C】	進捗状況		
①授業改善教員による授業改善の取組の成果を各学校や各管内へ普及	①授業改善教員を派遣し、指導・助言(校)				

取組の柱	(3) ICT環境を適切に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実			点数	点
令和5年度の主な取組【P】	取組の実績【D】	取組の成果と課題【C】	進捗状況		
①デジタルを活用した学習環境の充実による、1人1台端末やクラウドサービスなどICTを効果的に活用した授業改善等の推進	①授業改善推進チームが学校を巡回し、ICTを効果的に活用した授業改善等を推進(校)				

取組の柱	(4) 家庭・地域と連携した望ましい生活習慣、学習習慣の定着		点数	点
令和5年度の主な取組【P】	取組の実績【D】	取組の成果と課題【C】	進捗状況	
①自主・自律的な学習習慣・生活習慣の定着に向けた取組	①ICT端末やクラウドサービスを活用した家庭での学習習慣の確立に向けた取組事例の収集と周知			

取組の柱	(5) 言葉を学び、感性を磨き、表現力を高める読書活動の推進		点数	点
令和5年度の主な取組【P】	取組の実績【D】	取組の成果と課題【C】	進捗状況	
①道立図書館及び市町村立図書館との連携による読書環境の整備や、資料・情報サービスの提供による全校一斉読書活動の充実 ②子どもが読書に親しむ機会の充実に向け、市町村立図書館・公民館図書室等と読書活動団体やボランティア等の連携促進に係る取組の推進	①-1 道立図書館の「学校図書館運営相談」や「支援貸出事業」などの実施 ①-2 学校と公立図書館等が連携した読書環境充実にに向けた支援（好事例の紹介等） ② 子どもの読書活動応援動画の作成・配信（10月）			

取組の柱	(6) コミュニケーション能力や主体性を育む体験活動の充実		点数	点
令和5年度の主な取組【P】	取組の実績【D】	取組の成果と課題【C】	進捗状況	
①ネイバルにおける地域の教育資源を活用した魅力あるプログラムの開発と実施 ②ネイバルの活動報告書や施設のチラシを市町村教育委員会や学校へ提供するとともに、主催事業や体験活動に関する情報等をHPやSNSを効果的に活用して発信	①ネイバルの指定管理者や地域の民間団体等と連携し、主催事業実施計画書を策定し、実施 ②施設の活用を促すため、ネイバルのHPやFacebookに子どもたちにもわかりやすく情報を掲載するなど広報活動を充実			

合計点で判定
 4.6以上：順調
 3.6以上～4.6未満：概ね順調
 2.1以上～3.6未満：やや遅れている
 2.1未満：遅れている

4 総合評価

定量評価の判定 (各指標平均点) 【ア】	定性評価の判定【イ】	合計点【ア+イ】	総合評価
#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	

5 総合評価を踏まえた次年度の取組【A】

- ・新設。施策項目全体としての【A】（※次年度の【P】となることを踏まえて整理）
- ・ただし、その内容は、
 - ①定量評価の【A】と定性評価の【A】を整理
 - ②上記のほか、施策としての大きな視点に立った場合の【A】を記載することとし、

施策評価調書

1 施策の状況

施策名	施策項目14 いじめ防止の取組	所管課	生徒指導・学校安全課（義務教育課）
施策の方向性（要約）	<p>計画4章「施策の方向性」を記載。計画期間中は記載を修正しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校、家庭、地域、行政の連携を一層強め、いじめの早期発見・早期対応に向けた生徒指導体制の充実を図り、子どもたちがいじめの被害者にも加害者にもならず安心して過ごせる居場所づくりを全校で推進する。 ○ 全ての子どもたちが、「いじめは絶対に許さない」という意識を持ち、望ましい人間関係を構築するなど、子どもの健やかな成長を促す生徒指導を展開し、子どもが主体的に取り組むいじめの未然防止の取組の充実を図る。 ○ いじめ被害や子どもの不安・悩みを早期に把握し、学校・家庭が協力して対応できるよう、スクールカウンセラー等と連携した教育相談や、24時間対応の電話、SNSを活用した相談窓口の活用など、相談体制の充実を図る。 ○ ネット上のいじめやトラブルの防止、感染症等に関する偏見・差別、誹謗中傷等の防止に向けた取組を徹底するとともに、障がいや性的マイノリティなど配慮を要する子どもへのきめ細かな支援の充実を図る。 		
前年度の状況	<p>総合評価 評価年度（令和5年度）の取組【P】</p> <p>順調 R6年度調書から記載 ※前年度(R5)の調書の「5 総合評価を踏まえた次年度の取組【A】」をコピー</p>		

2 定量評価

全ての指標を評価

進捗率に応じて1～4点

指標	基準値 (R4)	目標値 (上段)					進捗率	点数 (調査機関)	分析 (令和5年度の主な取組と成果)【D・C】
		実績値 (下段)							
		R5	R6	R7	R8	R9			
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童生徒の割合 (%) (小、中)	小86.9 中84.0					100.0	-	点 全国学力・学習状況調査 (文科省) R5.4	・新設。道の基本評価調書と同様 ・指標の【A】に当たる部分は、「5 総合評価を踏まえた次年度の取組【A】」で整理
「いじめの認知件数」のうち、「解消しているもの」の割合 (%) (小、中、高)	小95.9 中96.5 高96.1 (R3)					100.0	-	点 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査 (文科省)	
いじめ防止に向け、スクールカウンセラーや弁護士等の専門家を交えて研修等を複数回行っている学校の割合 (%) (小、中、高)	小12.7 中18.3 高12.9					75.0	-	点 いじめの問題の実態把握及びその対応状況等調査 (道教委)	③
望ましい人間関係の構築に向けたソーシャルスキルトレーニング等を複数回実施している学校の割合 (%) (小、中、高)	小23.6 中24.4 高28.6					100.0	-	点 いじめの問題の実態把握及びその対応状況等調査 (道教委)	④
関係機関と連携したネットの不適切な利用の未然防止等に関する防犯教室を実施している学校の割合 (%) (小、中、高)	小77.2 中90.9 高92.7 (R3)					100.0	-	点 体育・保健・安全に関する調査 (道教委)	⑤

3 定性評価

取組の柱	(1) いじめの未然防止の促進		点数	点
令和5年度の主な取組【P】	取組の実績【D】	取組の成果と課題【C】	進捗状況	
①児童生徒が望ましい人間関係を築く力を育むなどいじめの未然防止の取組を充実	①「北海道いじめの防止等に向けた取組プラン」を改定（4月）し、学校と教育委員会の重点的・継続的を取組を明示 ②いじめ問題の対応について、高校生から直接、意見を聞き、今後の子ども政策へ反映するため「高校生カフェミーティング」をオンラインで開催（11月、1月 名参加）	小柱ごとに進捗状況がわかるように記載 (点数付けの理由がわかるように記載)	進捗見られる：1点 進捗見られない：0点	

取組の柱	(2) いじめの早期発見・早期対応に向けた生徒指導体制の充実		点数	点
令和5年度の主な取組【P】	取組の実績【D】	取組の成果と課題【C】	進捗状況	
①「学校いじめ対策組織」における組織的な取組によるいじめの積極的な認知「いじめ見逃しゼロ」と組織的な対応による早期発見・早期対応の徹底 ②各種研修等を通じて学校、市町村教育委員会に対し、「生徒指導提要」改訂の趣旨や意義、いじめ問題への対応等を周知	①「北海道いじめの防止等に向けた取組プラン」を改定（4月）し、学校と教育委員会の重点的・継続的を取組を明示【再掲】 ②-1 「いじめ対応ガイドブック・支援ツール」を活用したいじめの積極的な認知や早期の組織的な対応等に関する研修の実施 ②-2 管内生徒指導研究協議会の開催			

取組の柱	(3) 教育相談体制の充実		点数	点
令和5年度の主な取組【P】	取組の実績【D】	取組の成果と課題【C】	進捗状況	
①スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの派遣や、子ども相談支援センターの24時間対応、SNSを活用したチャット相談など、教育相談体制の充実 ②1人1台端末を活用して児童生徒の不安や悩みを早期に把握する相談窓口の利用促進	①-1 スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの派遣（道SSW 回派遣） ①-2 子ども相談支援センターによる電話相談の実施（相談件数延べ 件） ①-3 SNSを活用した相談事業の実施（相談件数延べ 件） ②ICTを活用して児童生徒の心身の状況を把握できるアセスメントツール「心と身体のチェック」の取組			

取組の柱	(4) 社会の変化に応じたいじめ問題への対応、差別・偏見、誹謗中傷等の防止		点数	点
令和5年度の主な取組【P】	取組の実績【D】	取組の成果と課題【C】	進捗状況	
①ネット上のトラブルの未然防止のため情報モラル教育の充実 ②ネット上のトラブルの早期発見、早期対応のためネットパトロールの実施	①-1 教職員向け指導資料及び保護者向け啓発リーフレットを作成し、HPに掲載 ①-2 児童生徒ネットコミュニケーション見守り活動を実施 ②民間会社に委託し、ネットパトロール業務を実施	合計点で判定 4.6以上：順調 3.6以上～4.6未満：概ね順調 2.1以上～3.6未満：やや遅れている 2.1未満：遅れている		

4 総合評価

定量評価の判定 (各指標平均点) 【ア】	定性評価の判定【イ】	合計点【ア+イ】	総合評価
#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

5 総合評価を踏まえた次年度の取組【A】

- ・新設。施策項目全体としての【A】（※次年度の【P】となることを踏まえて整理）
- ・ただし、その内容は、
 - ①定量評価の【A】と定性評価の【A】を整理
 - ②上記のほか、施策としての大きな視点に立った場合の【A】を記載することとし、
定量評価・定性評価それぞれの【A】を兼ねる位置付けで整理

施策評価調書

1 施策の状況

施策名	施策項目20 生涯学習・社会教育の振興	所管課	社会教育課
施策の方向性(要約)	<p>計画4章「施策の方向性」を記載。計画期間中は記載を修正しない。</p> <p>○ 道民が、生涯を通じて活躍できるよう、必要な知識・技能を身に付け、他者と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、自らの可能性を最大限に伸長することのできる学習機会の充実に資する取組を支援する。また、多様な人々が主体的に参画できる包摂的な社会の実現を目指し、潜在能力を発揮できる環境整備を推進する。</p> <p>○ 社会教育の推進に向けた取組への援助や、社会教育主事、社会教育士などの人材の育成に努めるとともに、知事部局や大学、企業等の多様な主体との連携・協働により、地域創生の実現に向けた社会教育の振興を推進する。</p> <p>○ 子どもの豊かな人間性を育むため、学校や家庭、地域において、地域の特色を活かした多様な体験活動を意図的・計画的に創出する。</p>		
前年度の状況	総合評価	評価年度(令和5年度)の取組【P】	
		<p>順調 R6年度調書から記載 ※前年度(R5)の調書の「5 総合評価を踏まえた次年度の取組【A】」をコピー</p>	

2 定量評価

全ての指標を評価

進捗率に応じて1~4点

指標	基準値(R4)	目標値(上段)					進捗率	点数	出典(調査機関) 調査期日	分析(令和5年度の主な取組と成果)【D・C】
		実績値(下段)								
		R5	R6	R7	R8	R9				
生涯学習の成果を活用している住民の割合(%)	59.5					80.0	-	点	生涯学習に関する住民の意識調査(道教委)	<p>・新設。道の基本評価調書と同様</p> <p>・指標の【A】に当たる部分は、「5 総合評価を踏まえた次年度の取組【A】」で整理</p>
社会教育主事を配置している市町村の割合(%)	68.7					100.0	-	点	社会教育主事の配置に関する調査(道教委)	
障がい者の学習機会に関する実態把握をしている市町村の割合(%)	26.8					64.0	-	点	北海道の市町村における生涯学習推進体制の整備状況調査(道教委)	③
道立青少年体験活動支援施設の利用者数(万人)	17.9 (R1)					18.9	-	点	青少年教育施設利用状況調査(道教委)	④
家庭教育サポート企業が教育委員会等と連携して家庭教育支援を行う市町村の割合(%)	6.7					54.0	-	点	北海道の市町村における生涯学習推進体制の整備状況調査(道教委)	⑤

指標	基準値 (R4)	目標値(上段)					進捗率	点数 (調査機関)	分析(令和5年度の主な 取組と成果)【D・C】
		実績値(下段)							
		R5	R6	R7	R8	R9			
公立図書館の来館者数 (万人)	556.6 (R3)					900.0	-	統計資料「北海道の図書館」から集計 (道図書館振興協議会)	⑥ 進展見られる：1点 進展見られない：0点

3 定性評価

取組の柱	(1) 生涯にわたる学習活動の推進		点数	点
令和5年度の主な取組【P】	取組の実績【D】	取組の成果と課題【C】	進捗状況	
①義務教育未修了者等の学び直しに係る学習内容を引き続き検討するとともに、高校中退者等を対象としたオンラインによる学習支援に取り組む ②学習の成果を地域や社会で活かす仕組みづくりの支援 ③高齢者のデジタルデバイド解消のため、「多様な学習機会の提供」として、ICTを活用したデジタルリテラシー向上をテーマとして講座等を実施	① 高等学校卒業認定試験合格に向けた学習支援や相談の実施（10月～3月、遠隔地の対象者には、SNSを活用した学習支援を実施） ② 「地域生涯学習活動実践交流セミナー」を開催し、学習の成果を人づくりや地域づくりに生かす取組を行っている地域の実践内容等を共有（月 名参加） ③ 道民カレッジにおいて、SNS活用方法について学ぶ教室や高齢者がICTを学んでいる学生からインターネット利用の基本を学ぶ教室を開催	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> 小柱ごとに進捗状況がわかるように記載 </div>		

取組の柱	(2) 社会的包摂の実現につながる取組の推進		点数	点
令和5年度の主な取組【P】	取組の実績【D】	取組の成果と課題【C】	進捗状況	
①障がい者の学びのニーズや特性に応じた学びの機会の確保や取組の支援（再掲）	①国の委託を受け「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」の実施（モデル地域4か所） ○主な事業内容 ・関係機関の参画による地域連携コンソーシアムの形成 ・学習プログラムの開発 ・コンファレンスの開催			

取組の柱	(3) 学びの活動をコーディネートする社会教育主事などの人材育成		点数	点
令和5年度の主な取組【P】	取組の実績【D】	取組の成果と課題【C】	進捗状況	
①専門的知識・技術を持った社会教育行政職員の育成を推進するため「社会教育主事」「社会教育士」の資格を付与する「社会教育主事講習」の受講促進 ②社会教育主事等の資質向上に向けた研修の充実	①生涯学習推進センターにおいて社会教育主事講習を実施（平日開催を基本とするA日程、休日開催の基本とするB日程で実施（両日程延べ 名受講）） ②-1 社会教育主事講習を修了した社会教育主事や社会教育士を対象に社会教育スキルアップ研修会を開催（8月、9月、12月の3回開催 名参加） ②-2 経験の浅い社会教育関係職員を対象に社会教育ベーシック講座の開催（7月、11月 名開催） ②-3 北海道社会教育主事会協議会と連携した「北海道社会教育セミナー」を実施（6月1日～6月2日実施 名参加）			

取組の柱	(4) 多様な主体との連携・協働による地域の教育力の向上		点数	点
令和5年度主な取組【P】	取組の実績【D】	取組の成果と課題【C】	進捗状況	
①社会教育施設等の機能を活用し、地域住民や関係団体、行政の協働による地域課題を解決する社会教育事業の実施（再掲） ②デジタル化の進展を踏まえ、公民館等の社会教育施設を活用した、利用者のデジタルリテラシー向上の取組の推進	①学校を核とした地域づくりの推進に向けて、学校と地域の教育課題に対応した地学協働の実際の取組事例を学ぶ「地学協働講習会」を実施（月 名参加） ②道民カレッジ事業において道民のデジタルデバイド解消のための講座を開設（ 名受講）			

取組の柱	(5) 地域の特色を活かした多様な体験活動の推進		点数	点
令和5年度主な取組【P】	取組の実績【D】	取組の成果と課題【C】	進捗状況	
①ネイバルにおける地域の教育資源を活用した魅力あるプログラムの開発と実施 ②ネイバルの活動報告書や施設のチラシを市町村教育委員会や学校へ提供するとともに、主催事業や体験活動に関する情報等をHPやSNSを効果的に活用して発信	①ネイバルの指定管理者や地域の民間団体等と連携し、主催事業実施計画書を策定し、実施 ②施設の活用を促すため、ネイバルのHPやFacebookに子どもたちにもわかりやすく情報を掲載するなど広報活動を充実			

合計点で判定
 4.6以上：順調
 3.6以上～4.6未満：概ね順調
 2.1以上～3.6未満：やや遅れている
 2.1未満：遅れている

4 総合評価

定量評価の判定 (各指標平均点) 【ア】	定性評価の判定【イ】	合計点【ア+イ】	総合評価
#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

5 総合評価を踏まえた次年度の取組【A】

<ul style="list-style-type: none"> ・新設。施策項目全体としての【A】（※次年度の【P】となることを踏まえて整理） ・ただし、その内容は、 <ul style="list-style-type: none"> ①定量評価の【A】と定性評価の【A】を整理 ②上記のほか、施策としての大きな視点に立った場合の【A】を記載することとし、
